



令和7年 1月 8日
1月号 No.468
発行責任者
校長 西村 学徳
所在地 福生市熊川623

新年を迎えるにあたり

校長 西村 学徳

明けましておめでとうございます。新しい年、令和7年がスタートしました。この一年が皆様にとって幸多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

さて、今年は「巳年」です。毎年、年の初めに「〇年（どし）は、□□な年ですよ。△△な特徴がありますよ。」という話をよく耳にしますが、いつも「ふむふむ、そうなんだ。なんかいい年になりそう。」で終わってしまい、十二支（じゅうにし）の由来や言い伝え等、十二支に関連することを正直なところ、あまり詳しくは知りませんでした。新年を迎えるにあたり、私自身が巳年生まれということもあり、今更かもしれませんが、十二支に興味が生え、今回十二支と巳年について図書室の百科事典やネットを使って調べてみました。

まず、これまで全く同じものと思っていた干支（えと）と十二支は、本来は若干違うことに驚きました。干支は「十干十二支（じっかんじゅうにし）」の略で、十干（甲、乙、丙、丁…）と十二支（子、丑、寅、卯、辰…）を組み合わせた暦であり、甲子、乙丑、丙寅…というように60通りあります。今から2000年以上前の中国の前漢時代に始まり、日本には6世紀ごろに朝鮮を通じて伝えられました。暦は60年経つと元に戻ることであり、これが還暦です。日本では、十干を省いた十二支が一般的に干支と呼ばれるようになったとのこと。また、巳年の特徴としては、干支の中でも「巳（へび）」は皮を脱ぎ捨て新たな姿に生まれ変わる知恵や再生の象徴とされ、新たな自分を生み出す挑戦の年になるとのことでした。調べてみて、新たに知ったこともあり、興味をもって調べることは楽しいことだと改めて感じた時間となりました。

巳年の特徴を知った際、まさに本校のこれからの教育と重なるところがあると思いました。今年度、創立150周年の節目であった本校は、2学期までの周年事業に関連する行事や学習を通し、子供たちも教職員も、本校の歴史の重みや本校のよさ、地域の方のご支援等を強く実感してきました。3学期も引き続き周年事業の充実を図り、年度の締めくくりをしっかりと行っていきます。そして、4月からは令和6年度の経験や学びを基盤に新たな一歩を力強く踏み出し、子供たちのよりよい成長と学びのために保護者や地域の皆様と共に新たな挑戦をしていきたいと考えています。今後も、本校の教育活動へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。